

魚沼園芸 ものずき村（新潟県魚沼市） ～地域の交流の場を創出し、高齢者の知恵を活かした地域活性化～

代表者: 村長 仲丸 幸
所在地: 新潟県魚沼市三沢沢
構成員: 生産者178名
活動開始年: 平成19年



表彰理由

高齢者が気軽に集まって地域の人々と交流できる場づくりを目指し、平成19年に直売所を開設。消費者との井戸端交流を重視した直売所の運営に加え、併設のそば処で地元の転作田等で栽培されたそば粉を使った手打ちそばの提供している。また、わらびやブルーベリーの観光農園を開設することによる耕作放棄地解消への取組を進めている。この結果、出荷者同士や消費者とのコミュニケーションが深まってきたことに加えて、1人暮らしの高齢者の集いの場になるなど、地域の人々のオアシス的な存在となっている。

高齢者は知恵、優れた農業情報の保持者でもあり、地場産物の販売や食農体験、生産、加工技術の伝承など、その知恵が地域で生かされ、地域の活性化に繋がっている点が評価される。

取組内容

1. 高齢者と地域の消費者の交流の場の創出

- 高齢者と地域の消費者が交流できるお茶飲み場作りを目指し、平成19年に「魚沼園芸ものずき村」を開設。地域の農業者は販売する場ができたことで生産意欲が高まり、出荷者は開設当初の60名から178名に増加した。
- 直売所に設置したお茶のみ場に、地元で採れた山菜や野菜を使った家庭料理、伝統料理を並べ、交流の場を作ることで、出荷者同士や消費者とのコミュニケーションが深まってきたことに加えて、1人暮らしの高齢者の集いの場になるなど、地域の人々のオアシス的な存在となっている。

2. 遊休農地等の活用

- 手打ちそば処「げんたん」を直売所に併設し、地元の転作田等で栽培されたそば粉を100%使った手打ちそばを提供。遊休農地の有効利用や魚沼市産そばのPRにもなっている。
- 近隣の集落と連携し、遊休農地を復旧して、わらび園やブルーベリー園を造成。来園者には、わらびの収穫やブルーベリーの摘み取りを実施。わらびは漬物に加工して直売所で販売している。

3. 農作業体験・食育を通じた地産地消

- 魚沼市と連携し東京都内の小中学生を毎年120人程度受け入れ、だいこん、にんじん、ばれいしょの収穫体験や笹団子作り、餅つき、そば打ち体験などの食育活動を実施し、年々交流が深まっている。

4. 都会と郷里のつながりを提供

- 上京した郷里の方にふるさとを感じてもらうため、ものずき村の出荷者が栽培した地場農産物や山菜などを詰めた「ふるさと便」を発送。都会と郷里をつなぐパイプ役となっている。